

農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

(11) 事業間連携による担い手への対応力強化

JA佐波伊勢崎 (群馬県)

新規	継続
○	(平成 年 月)

1 動機(経緯)	JA佐波伊勢崎では、担い手への更なる対応力強化を目的に、事業間の連携強化に取り組んでいます。
2 概要	<p>当JAでは、予てより事業間連携を模索するものの、本格的な連携には至っていない状況でしたが、金融部門からの働きかけや、農林中央金庫で実施している農業金融トレーナー・トレーニング研修への金融職員・TAC職員(※)同時期派遣を契機に、29年度より事業間の連携強化を開始しました。</p> <p>【取組概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 毎月開催されるTAC月例ミーティングへの融資課職員参画。 2 営農部門(TAC活動)と金融部門(農業金融)双方の業務内容の把握と理解。 3 TAC職員が保有する農業者情報の重要性の認識。 4 TAC月例ミーティング内での情報交換。 <ul style="list-style-type: none"> ・融資課⇒TACへ(農業融資に関する基礎知識や各種施策等の情報を提供) ・TAC⇒融資課(TAC活動のなかで捕捉した農業者情報の提供) 5 ミーティング内で共有した農業者情報を基とした同行訪問の実施。 <p>(※) 地域農業をコーディネートするという意味を持つ「Team for Agricultural Coordination」の頭文字をとったもの。</p>
3 成果(効果)	<p>TACとの連携開始後約5ヶ月間で、23件、121百万円の需資ニーズを捕捉し、そのうち16件、70百万円の農業融資を実施しました。</p> <p>TAC職員は、農業者にかかる情報と専門的な営農知識を有することから、同行訪問は非常に効率的で、双方の保有する専門的知識の共有化も図ることができ、農業者への対応力強化に繋がりました。</p>
4 今後の予定	今後については、TACとの連携を継続するとともに、農機・自動車センター等との連携も強化し、最終的には、部門間を超えた連携体制の構築により、総合事業体であるJAの強みを活かした担い手サポート活動の展開を図っていきます。

【TAC月例ミーティングの様子】



【同行訪問の様子】

